

伊野

今回リオデジャネイロで開かれたオリンピックでは日本選手の活躍も目覚ましく、すばらしい結果で終えましたがどうみられましたか？

羽佳

すばらしい結果でしたね。日本の選手は天才だと思います。みな天才です。

伊野

えっ？僕らから見ると中国は人材も豊富でそれこそ天才ばかりだと思っていましたが…。もし日本の選手が天才なら、この中国との差はどこにあるのでしょうか？

羽佳

からだですね。もちろん日本にもしっかり鍛えている選手もいますが全体としては日本の選手は体幹がぶれやすい。中国の選手はからだを鍛えこんでいるので安定感があると思います。

伊野

なるほど、確かにからだつきが全然違いますよね。すごく鍛えこんでいるのが伺えます。

からだを鍛えていくと自然に強い意志も生まれてきますよね。それがあの強靱なプレイにつながってくるのですね。

日本の選手は中国の選手に勝とうと一生懸命だと思うのですが、中国の選手はこれまでの必勝不敗・無敵の歴史とも戦っていかなくてはならないわけですから、国の代表として戦うとなると精神的な重圧は計り知れませんよね。

羽佳

そうなんです。ですから小さい頃から鍛えこんでいきます。そしてそれには教育が大切になってきます。

伊野

オリンピックや世界選手権に出るような選手の中にも「代表」だという自覚が見えてこない選手も中にはいるように感じますが…。それもまわりの大人たちの子どもたちへの接し方や教育が大切ということですね。

羽佳

そうですね。時代としては「個人の楽しみ」に夢中で、まわりに自分を支えてくれる沢山の人が、協力してくれる人がいることに気がつかないアスリートもいるようです。

最小単位で考えると自分はまず「家族の代表」そして、「クラブの代表」、「学校の代表」、「都や県の代表」、そして「国の代表」になるのですから、それぞれのに恥ずかしくない行動をしないとね。また、それぞれの群(グループ)の中でしっかりとした教育が必要です。

最近大学生にそんな話をすると、「先生はまじめ過ぎる、もっと楽しみましょう。私たちは楽しくやりたいです。」と言われちゃうんですよ(笑)。

伊野

もちろん楽しくやることはとてもいいことですが、最近の子どもたちは楽しみかたが下手な気がします。一生懸命にやることの充実感。その楽しさを知らないんじゃないかと。

羽佳

そうですね。先日大切な予選会があったのですが、出場した子どもの中に、とてもふがいない試合ぶりで負けた子がいて、その理由を聴いてみると、「必死にやって負けたら格好悪い。適当にやって負けても、まだ本気じゃないんだとまわりは思うだろうから。」というものでした。

伊野

僕も子どもの頃はそう思う時もありましたが、実はまわりの人たちはみんなちゃんとみていて、自分の力なんかははっきり解っているし、後で考えるとそれは恥ずかしいほど格好悪いことですね。

羽佳

真剣に必死になってやる方が格好いいですね。真剣に取り組む方が楽しいし、必死になってやらないと本当の充実感は何も得られません。

伊野

それにまじめに取り組んだ方が楽しい。

羽佳

ここで問題なのは、そういった雰囲気は常日頃からそこにあるということです。我々大人は、そういった真剣な雰囲気づくりをしていかないといけないですよ。自分が本当にうまくなりたいたら、そのために何をしなくてはならないかを常に必死になって考え、真剣に取り組まないと、結果は出せません。またそのためには沢山の人の協力も必要になってきます。みなに応援してもらえるような人間にならないとね。

例えば私と伊野さんが試合で当たったとして、もし周りの100人がみんな伊野さんの応援をしたら私は絶対に勝てません。反対に皆が私の応援をしたら私は絶対に勝てます。

伊野

う～ん、羽佳さんと試合なんて、そのコトバ、僕のお宝にしちゃいます(笑)。

今のスポーツをとりまく環境としては、社会的な関心も高まり、発言力も発信力も強くなり、スポーツを生活の糧にできるとてもいい時代になってきました。半面、他人の手によって商品化され美化されたうわべだけの選手が量産されやすい時代でもありますので、よっぽど気をつけていないと自分が多くの人に支えられているのに気づけない、ただのワガママ人間になってしまうし、又それを良しとってしまう風潮が高まっているように思います。

羽佳

今の選手たちはとても素直に話をしていてと思いますが、テレビなどを通じて多くの人に接する機会が増えますので、自分達の影響力を考えて、話し方に気をつけ、色んな人の助言に耳を傾けて、もっと勉強をして、よりいっそうの活躍してほしいですね。

伊野

本当にその通りだと思います。羽佳さんとはもう20年以上のご縁ですが、お会いするといつも刺激をたくさんいただき、とても元気になれます。僕の大好きな卓球に携わる人の中に羽佳さんのような人がいてくれて本当に嬉しいです。本日はお忙しいところありがとうございました。